

希少猛禽類調査と保全対策

生態系において、上位種となる猛禽類（イヌワシ、クマタカ、オオタカ、サンバなど）はとても重要な役割を果たしています。そのため、環境影響評価（環境アセスメント）においては常に注目され、多くの予算を投じて調査が行われてきました。特に、猛禽類の営巣地を特定することは難しく、多くの調査人工を必要とします。また、種の保全のためには、調査対象となっている種の詳しい生息状況や行動範囲を把握する必要があり、調査には高度な技術と熟練した経験が求められます。



里山を代表する猛禽類サンバ

そのため、当社では鳥類専門のスタッフが、案件ごとに最適な調査方法を提案させて頂いております。

◆ ニーズに合わせた調査手法と保全対策検討

当社では猛禽類などの野生生物と人間が共存する社会づくりを目指し、施工中のモニタリング調査や保全処置など様々なケースにおける問題点に対して、当社独自の調査手法と解析によって、早期の問題提起と最適な対策手法を段階毎に提案させて頂いております。

事業計画・事業設計時

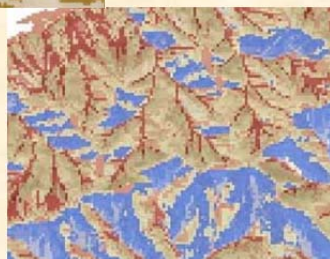
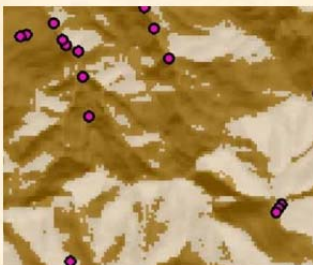
- ・希少な猛禽類の生息状況の情報収集
- ・各自治体など行政機関への届け出
- ・猛禽類への影響予測と保全対策の検討

施工・併用時

- ・工事中の配慮事項の検討と実施
- ・環境教育の実施
- ・猛禽類と事業の共存方策の検討

◆ 猛禽類調査における特殊な技術紹介

（１）GISを使った生息情報の解析と視覚化



当社では、内部構造解析にとどまらず、周辺域における生息適地の統計的な推定など、GISと統計解析を組み合わせた高度な解析に対応しています。

たとえば、代替営巣地を推定するためには、対象個体のみならず、地域個体群の環境選好性を数理モデルとして表現し、それを周辺域に外挿することにより、高精度な営巣適地の抽出が可能となります。採餌適地の推定では、餌動物相を把握するサンプリング調査を実施し、餌動物が集中して出現する環境を明らかにし、その環境条件を定量化して外挿することにより、採餌適地を高精度に抽出できます。

（２）木登り技術を応用した調査手法

当社では猛禽類に精通した調査員が、クライミング技術を応用することで猛禽類の営巣木に登り、樹上で様々な作業を行ってきました。その技術の一部をご紹介します。



➤ 猛禽類代替巣の設置

事業計画地内で繁殖している猛禽類に対する事業影響を回避する手法として、猛禽類の営巣地を計画地内から計画地外の離れた場所に誘導する試みが実施されています。当社では、既存の営巣地に代わる人工的な営巣地（代替巣）の設置を実施しています。



➤ CCDカメラの設置

猛禽類の営巣地にCCDカメラを設置し、巣内の状況を営巣地から離れた場所からリアルタイムでモニタリングします。この監視システムを導入することによって、事業影響の有無を的確に判断し、事業を円滑に進めることが可能となります。



◆ 当社による猛禽類の生態研究紹介

国内に生息するサシバ*Butastur indicus*の生態や繁殖環境等については、これまで東日本を中心に多くの研究が行われてきました。しかし、西日本に生息する個体群についてのそれらの研究はほとんど行われてきませんでした。近年の研究では西日本に生息するサシバの一部で遺伝的に異なるタイプの存在が示唆されており（長井ら2010）、今後、西日本に生息するサシバと東日本に生息するサシバを様々な視点で比較検討していく必要があると考えられます。

そのため、当社では、岩手大学農学部の東淳樹先生および野鳥研究家の伊関文隆氏らとの共同研究によって、西日本に生息するサシバの生態解明のために、生息地環境解析や餌内容調査などを実施しています。

※ 2011年9月には、日本鳥学会2011年度大会にて「西日本におけるサシバの繁殖地の環境特性」をポスター発表しました。

◆ 【お問合せ先】 ◆

株式会社 緑生研究所

〒182-0026 東京都調布市小島町 2-40-10 桐生ビル2F

TEL : 042-499-7211, FAX : 042-487-4334, E-mail rs@ryokusei-ri.co.jp

営業担当 麻生